

いもう 葦毛通信



サワオグルマ

平成 30 年 9 月 27 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町 3 丁目 1
TEL : 0532-56-6060

No. 70

1、2018モニタリング報告-3

昨年度の作業後、約7か月がたち、作業を行った各地点では様々な植物が発芽してきました。発芽してくる植物は地中の水分量によって違いが見られます。最も水分量が多く、水溜まり状になっているところからは、コウガイゼキショウの仲間やカヤツリグサの仲間が多く発芽してきます。やや水分量が少ないところからは、イヌノハナヒゲやトウカイコモウセンゴケ、アブラガヤ等が発芽してきました。以下では、地点ごとに説明します。

1) O地点

O地点は作業前後の状況を葦毛通信 No. 61~63・65で報告しましたが、バックホーによる伐根作業後7か月余りがたち、湿生植物が発芽してきました。伐根作業後1年目なので発芽する植物は少ない状況ですが、特に水分量や地質条件の違いによって発芽してくる植物に違いが見られます。

右上写真はO地点の南端でO地点の中では最も標高が高いところですが、水分が多く礫が目立つ裸地になっています。右下写真は手前の部分が礫の多い裸地で、地下水位が高く地表面に水がしみだして小さな水溜まりがいくつも見られます。

奥に行くに従って低くなっており、画面中央奥の部分では水分がやや少なく、マネキシングヤ、ケシングヤがわずかに発芽し、イヌノハナヒゲが多く発芽しています。

さらに奥のやや乾燥したところではアカメガシワが多く発芽して山のような群落を形成しています。



O地点作業後1年目(2018年9月15日:東から)



O地点作業後1年目(2018年9月15日:南東から)

手前の水分が多く水溜まりができているところでは、水溜まりの中に土が溜まりミミカキグサが開花し、周りのやや高くなって乾燥したところにはトウカイコモウセンゴケが数多く発芽しました。トウカイコモウセンゴケは○地点全体で概数ですが明らかに1,000個体以上が発芽し、開花している個体もわずかに見られます。



開花したトウカイコモウセンゴケ

トウカイコモウセンゴケ、ミミカキグサ（中央）



○地点南端の発芽状況、トウカイコモウセンゴケが多く発芽（2018年9月23日）

トウカイコモウセンゴケは6～7月頃に咲くものと、9～10月に咲くものがあるようで、今回開花したのは秋に咲くもののようです。発芽したほとんどの個体は花茎をのばしておらず開花しないようです。おそらく来年の6月には開花して、ピンクの絨毯のようになると予想しています。

○地点の中央は水分が少なくやや乾燥しています。中央から右側の水路にかけてアカメガシワが優占する群落を作っています（右上写真の中央）。

右中写真の場所は、葦毛通信 No. 63 でバックホーによる伐根作業を報告した場所です。右側にはアカメガシワの群落が見えますが、左側は小さな沢があり、周辺は湿地になっています。まだ伐根作業後1年目なので発芽する植物は少ない状態ですが、来年には増えてくると予想しています。

右下写真は右中写真の左側で沢沿いを見たところです。イヌノハナヒゲが全体にまばらに見られ、アオコウガイゼキショウが一部で群落を作り、コアゼガヤツリ、ヒメオトギリ、ミズオトギリ、サワヒヨドリもわずかに見られます。

また、小さな水溜まりの周辺ではトウカイコモウセンゴケが多く発芽しています。シラタマホシクサもわずかに見られ、いずれも20～30年前の埋土種子から発芽してきたものと考えられます。



○地点中央（2018年9月23日：南から、葦毛通信63号参照）



○地点中央南側（2018年9月23日：南東から、63号参照）



○地点中央南側（2018年9月23日：東から）

2) Y地点

Y地点は葦毛通信 No. 62で伐根作業後の状況を報告しています。右上写真はY地点の北西側で画面手前の右から左に向かって水が流れ、画面左側には細かな砂礫が堆積しています。水路沿いは流れが速く砂礫の堆積が多く植物があまり発芽していません。

砂礫層の奥には柔らかい灰色土層が厚く堆積しており、その上に黒色土が堆積しています。この部分からはアオコウガイゼキショウ、タマノコウガイゼキショウ、ハナビゼキショウ等のコウガイゼキショウの仲間が多く発芽してきました。現在はコアゼガヤツリ、ヒメガマ、ホタルイ、ウシクグ等が発芽・開花しています(右中・下写真)。

○地点は礫が目立つ裸地で三の沢からの水で涵養されており、Y地点北西端は軟弱な土壌が堆積して旧水田の水路から多量の水が流れ込んでいます。両地点の植生の違いは、地質条件だけでなく、水質にも関係している可能性があります。

○地点の南東側は来年にはイヌノハナヒゲが優占し、次にシラタマホシクサが増えてくると予想しています。やがてこれらの植物が枯れて堆積し、土壌が形成されるとヌマガヤが侵出します。

そして、何もしなければ遷移が進み木本類やネザサ・コシダ・ウラジロ等が侵出して作業前の暗い森に戻っていくと予想されます。



Y地点北西側(2018年9月15日:北西から通信62号参照)



Y地点北西端(2018年9月15日:東から、通信62号参照)



Y地点北西端(2018年9月15日:南から)